



再就職支援講座
大船渡



小規模介護事業所
合同研修会 釜石



介護入門的研修
9月生 県央



令和2年 第1回
介護カフェ 県央

みなさんにエールを送る 福祉のしごと情報誌

YELL

「人にあえる（会える）」
人と人をつなげること
（マッチング）が大好きな
“あえる”ちゃんも
応援しております！



エールは、介護施設・事業所にとってタイムリーで役立つ情報をお届けするとともに、
介護の職場で働いている人・働きたい人を応援する情報誌です。

vol.02

NOVEMBER

2020.11.01

P.2 【特集】

障がいへの合理的配慮・誰もが働きやすい職場に向けて
幅広い人材を活用『社会福祉法人 慈孝会』

P.4 東日本大震災から10年～宮古圏域における介護人材の動きについて

P.6 福祉の職場で働く人にYELL

P.8 エールインフォメーション

社会福祉法人慈孝会は岩手県の県北部、自然豊かな一戸町で地域密着特養ホーム、デイサービスセンター、グループホームなどを運営しています。大切にしているのは、「おもてなしの心に満ち溢れた、あたたかい場所づくり」。昭和59年に設立して以来、お客様に対してはもちろん職員同士においても、礼節を何より重んじてきました。慈孝会では、これまでも障がいを持つ方の職員採用に取り組んできました。今年に入り、2名を新たに採用。その中の一人、合川知代子さんは聴覚障がいがあります。介護職を目指した経緯、実際に働いてみての印象、施設側の思いについて、合川さんと駒木彬了副施設長にお話を伺いました。



今年の2月から勤務している合川 知代子さん

事務職から介護職へ

合川さんは以前、二戸市内のホームセンターで20年近く事務員として働いていました。現在、52歳。長年慣れ親しんでいた仕事を辞めて、異業種である介護職に飛び込んだのは、なぜだったのでしょうか。

「これまで、私はホームセンターで働きながら、義父の祖母のお世話をしてきました。その祖母を看取ったのをきっかけに、本格的に介護の仕事をしてみたいと思ったんです」。介護職に就きたいという思いを、合川さんは知人の就労施設職員の方に話します。その方が、つながりのある慈孝会を紹介。その後、岩手県福祉人材センターを通じて雇用に結びつきました。

合川さんは今、慈孝会が運営する地域密着型特別養護老人ホーム慶寿園に勤務しています。主な仕事は、シーツ交換などのベッドメイクや、施設内備品等の消毒といった清掃業務です。介護職については、終業前の1、2時間、グループホームで食事介助の手伝いなどを行っています。合川さんは、「食事介助の際に、利用者の方々とコミュニケーションをとれるのが楽しいです」と、やりがいを感じています。

特別扱いなく、自然に

慈孝会では、これまでに障がい者雇用として、視覚障がいの方や内臓疾病を抱える方を採用。視覚障がいの方はマッサージ師として、内臓疾病の方は運転手として働いていました。運転手の雇用が前例となり、それ以降、職種

「障がい」で限定しない

合川さんの仕事内容は現在、清掃業務を占める割合が大きく、本来は介護職を希望しているだけに、駒木さんは、どのように比重を増やしていくのか検討中だといいます。

「後ろからの呼びかけや、館内放送などの課題は、職員と協力することで解決していけると思います。難しいと感じているのは、利用者の方々のコミュニケーションです。方言があったり、ぼそぼそとした口調の方もいらつしやる中で、積極的にコミュニケーションを図るとなったときに、どのくらい対応できるのか。また、目の前の利用者さんに集中すると、後ろに死角ができてしまい、合川さんはそこで物音がしても気づけません。複数での介助ならば手伝ってもらえるだろうが、こんな場合なら大丈夫だろうか、と、手探りを続けているところです。調整を重ねていき、本人の希望通りに、少しでも利用者さんと触れ合える仕事を増やしていけたらと考えています」。

新型コロナウイルス対策も必要とされる現在、手洗いや換気他、マスクの着用も重要です。ですが、合川さんは口の動きが見えなくなってしまう。そこで、慈孝会では透明なフェイスガードの着用で解決につなげています。また、利用者の家族の方々の直接の面会を遠慮していただく代わりに、パソコンのモニターを使い、オンラインでの面会を推進しているそうです。

今回、合川さんを採用したことで、新たな可能性を感じることができたと、駒木さんは語ります。

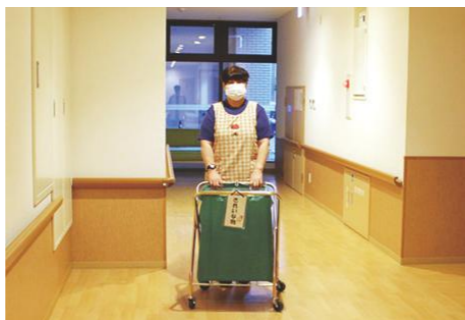
「これまでを振り返ってみると、障がい者雇用の仕方が限定的で、雇用することに対して心配すぎていたのかなと感じています。とはいっても、働く上で安全を優先することは、忘れてはいけません。合川さんのように、職員とスムーズにコミュニケーションがとれる方もいますし、『〇〇の障がいだから厳しい』と決めつけるのではなく、その人の特性を理解し、それに合わせて仕事をしてもらうこ



副施設長 駒木 彬了さん



ベッドメイキング中の合川さん



とが大事だと思っています。このことは、障がいの有無にかかわらず、職員に対しても同様です。例えば、子育て中の職員の業務負担を減らすことも、安心して継続的に働くことにつながります。障がいを持つ人に対し、会社として気を付けなければならぬことを認識し、設備を整えていければ、もっと色々な方々に、活躍の場を広げることができるのかなと考えています。合川さんの採用が、良いきっかけになりました」。

慈孝会の職員たちと合川さんはがっちりスクラムを組み、これからも、働きやすい環境づくり、そして利用者の過ごしやすい環境づくりに努めていきます。

施設概要

社会福祉法人 慈孝会

- ◆設立：昭和59年4月1日
- ◆施設：特別養護老人ホーム、短期入所、デイサービスセンター（3拠点）、グループホーム、居宅支援事業所、有料老人ホーム
- ◆住所：岩手県二戸郡一戸町姉帯字下村24-1
- ◆電話：0195-34-2112



東日本大震災から10年

宮古圏域における介護人材の動きについて

慢性的に人材不足の介護・福祉、さらに新型コロナウイルス感染症の影響によりますます人材確保が難しくなっているとされています。
 今回は震災から10年、宮古圏域の雇用の動きについて岩手労働局ハローワーク宮古職業紹介部門の佐々木文雄氏に震災前から現在までの状況をお聞きしました。

岩手労働局ハローワーク宮古職業紹介部門

就職促進指導官 佐々木文雄氏

復興需要等を背景に約7年半の間、有効求人倍率が1倍を上回る高水準で推移するなど、緩やかに改善が続いていた当圏域の雇用情勢ですが、震災からまもなく10年を迎える今、有効求人倍率は1.02倍（令和2年9月末）と1倍をやや上回るものの、新型コロナウイルス等の深刻な影響により、多くの産業において先行きが不透明な状況となっています。

そのような中、当圏域の介護業界を取り巻く雇用情勢は、震災以降も着実に改善が進む一方で、少子高齢化が進む現状においては、特に人手不足の状況となり、今なおその解消が課題となっています。
 引き続き、関係機関並びに地域介護事業者の皆様とともに、生徒・学生等の若年層から高齢層までの幅広い年齢層の方々に対し、事業所見学会等のイベントや窓口の相談等において、介護職が多様な人材がやりがいを感じ長く活躍出来る職業である等その魅力を発信し、一人でも多くの方が興味・関心を持ち目指したい職業となるよう啓発して参りたいと思います。

岩手県福祉人材センター

沿岸北部キャリア支援員 館洞

キャリア支援員として宮古圏域を担当していますが、震災から3年は、生活再建の課題や時間の経過とともに発生する新たな問題、沿岸部では人口減少に伴う高齢化の進行がさらに進んでいます。

当初は、新規事業、事業の再開・再建を目指す事業所などに伴い介護職の求人も増えてきました。一方で、賃金の高い復興関連事業の求人も多く介護・福祉の求人難がより加速した印象があります。

特に、人口減少における景気の上昇と求人増加は、介護分野の中で事業者同士が人材を獲りあうというより、介護分野と他の事業分野での人材確保の競争がより目立つ印象です。

ここ2年で、復興関連事業もほぼ終了し、事業関係者等で潤っていた飲食・宿泊業なども落ち着き、逆に街が少し寂しくなっている印象です。

人材確保の現状は、子育てしながら就労を希望する方（日勤）も多く、求人と求職のミスマッチが課題となっています。また、施設事業所には、介護職のやりがいや魅力ある職場をPRする情報発信をしていただくよう当センターで開催する就職面談会への積極参加をお願いしています。求人数は少しずつ減少傾向で、最近の有効求人倍率からも相談者が事業所を選ぶ状況から、事業所側が人を選ぶ状況になりつつあります。しかし、介護人材の中には同分野で転職する方も多く、今後も、自助努力（ホームページ作成、相談会などイベントへの積極参加・PR）を行い、魅力ある職場を作らなければ人材確保は困難な状況になると考えられます。

介護人材マッチング支援事業においても、相談者に寄り添った支援を基本とした対応の継続や人材センターの周

●全国・東北各県の有効求人倍率の推移【福祉・医療】

年次	全国	岩手(宮古)	青森	宮城	秋田	山形	福島
平成22年度	0.56	0.46(0.56)	0.39	0.47	0.45	0.54	0.45
平成23年度	0.68	0.62(0.53)	0.46	0.71	0.57	0.69	0.66
平成24年度	0.82	0.94(1.02)	0.61	1.13	0.69	0.91	1.07
平成25年度	0.98	1.06(1.34)	0.73	1.26	0.76	1.04	1.28
平成26年度	1.12	1.10(1.30)	0.81	1.28	0.94	1.22	1.45
平成27年度	1.24	1.22(1.36)	0.96	1.35	1.07	1.21	1.45
平成28年度	1.39	1.32(1.41)	1.13	1.50	1.21	1.35	1.43
平成29年度	1.54	1.42(1.49)	1.27	1.62	1.41	1.59	1.47
平成30年度	1.62	1.45(1.29)	1.30	1.69	1.53	1.64	1.51
令和元年度	1.56	1.33(1.16)	1.20	1.58	1.46	1.47	1.48

●宮古圏域の新規求人数の推移【福祉・医療】

年次	全産業	福祉・介護求人(介護求人)	医療求人
平成22年度	4235	698(354)	436
平成23年度	7079	909(581)	372
平成28年度	6331	828(495)	391
令和元年度	557	797(451)	492



知、イベント開催周知等の徹底が不可欠です。今年度は、宮古圏域での新たなイベントとしてジャンボタワーで行く「介護の職場見学会」を実施し参加者9名、うち1名が高齢者福祉施設へ就職しました。また、当圏域の相談者は、子育て中でパート希望の方や無資格・未経験者の40～50代が多く、介護の仕事を少しずつ理解してもらうために、「キャリア支援員との同行施設見学」の実施、「しごと体験」の促進・活用を強化、マッチング後も短期間で離職してしまうことのないように就労後1～3か月のフォローを徹底しています。これまで7年半のマッチング支援事業の取り組みを通して、就労から定着については一定の効果が表れていると感じています。一方で、現職職登録者に対しては、これまで以上に事業所側から「選ばれる人材」になれるような支援（面接・マナー講座開催など）も強化していきたいと考えています。



【新型コロナウイルス感染症に係る主な支援、助成金】

対象となる事業主	給付金	お問合せ先
景気の変動、産業構造の変化などの経済上の理由により事業活動の縮小を余儀なくされた場合に、休業・教育訓練・出向によって、その雇用する労働者の雇用の維持を図る事業主	雇用調整助成金	岩手労働局職業対策課分室 019-606-3285(直通) 及び各ハローワーク

福祉の現場で働く人にYELL



福祉・介護の仕事に携わる人材の確保が難しくなっている中、介護の職場と求職者との橋渡し役を担っているのが福祉人材センターのキャリア支援員です。求職者に対し、必要に応じて、応募の前に施設見学・職場体験の機会をつくる等、きめ細かな支援を行っています。キャリア支援員が関わり、介護の職場に就職した方や異業種から転職した方がたくさんいます。このコーナーでは希望がなくなって今いきいきと働いている方を紹介します。



株式会社 藤吉
絆ケアセンター
(陸前高田市広田町宇久保)
介護支援専門員 菅野 朋子さん
(平成31年4月採用)

福祉・介護の仕事を選んだ理由 (きっかけ、地元就職の理由など)

東日本大震災で、当時勤めていた店舗が被災し失業しました。求職活動中に介護職員基礎研修の募集があり、約半年間受講して修了後すぐに介護施設に就職しました。3年の実務経験を経て介護福祉士を取得し、6年目には介護支援専門員を取得しました。当時は5年の介護経験で受験できたので、ギリギリセーフでした。

介護現場での仕事は好きでしたし、やりがいも感じていましたが、体力的に少し不安を感じ始めたころ、福祉人材センターの存在を知り相談しました。ただ、その頃勤めていた施設にも不義理したくはないし、それでしばらく迷いました。

転職してからは、ケアマネジャーの先輩でもある社長の指導も受けながら、ケアマネ業務に従事しています。

仕事の内容は？

介護支援専門員として相談業務をしています。在宅介護のケアマネ業務は想像以上に大変な部分がありますが、社長が、「本人はもちろんのごくご家族に寄り添った考え方をする方です」なので、見習いたいと思っています。

介護福祉士として働いていた菅野さんが、「せっかく取得したケアマネの資格を活かした仕事をしたい。」と相談に来られたのは、平成30年の秋ごろでした。ただ、当時勤務していた事業所を年度途中で辞めることへの抵抗もあり、すぐに転職とはなりませんでした。

求人状況等、情報提供を継続しつつ、菅野さんご自身のお気持ちも確認しながら相談を続け、新年度に合わせて転職、介護支援専門員としてのスタートを切りました。

日々心掛けていることは？

「初心忘れず」ということです。いつになっても、いくつになっても、分からないことも多くて勉強の日々です。介護基礎研修で「一から学ぼう」と思った頃の気持ちを忘れないよう、心がけています。

最近は何事業所の方にも教えることがありますが、みなさんとても親切に教えてくださり感謝しています。

今後の目標を教えてください

何歳になっても、人と関わり誰かの役に立つ仕事をしていきたいと思っています。ケアマネ業務の手が空いた時などに隣接するデイサービスにお邪魔して、「利用者さんとのふれあいや会話から元気をいただく」ことがありま



社会福祉法人大槌町社会福祉協議会
小規模多機能型居宅介護事業所
ほっと おおつち
介護職員 飯原 学さん
(令和2年4月採用)

福祉・介護の仕事を選んだ理由 (きっかけ、地元就職の理由など)

障がい者施設で働いてきましたが、母が祖母の介護をしている姿を身近で見ると、今度は自分が祖母や両親を支えようと思ひ、より近くで老人介護を経験したいと思ったのがきっかけでした。

仕事の内容は？

利用者様の送迎や入浴介助、食事の配膳や排せつ介助などの日常生活のサポートやレクリエーション活動、夜勤などをさせていただきます。

初めてご相談いただいたのは令和2年2月でした。以前に障がい者施設での仕事をなさっておられ、老人介護に興味を持たれたとのことでした。同行施設見学を経て見学先の大槌町社会福祉協議会に応募・採用となりました。

日々心掛けていることは？

老人介護は未経験なので毎日学ぶことが多いですが、経験を重ねながら利用者様と元気づく、明るく接するようにしています。

今後の目標を教えてください

できるだけ多くの介護技術や介護に対する知識を身に付けて、介護福祉士や様々な資格の取得を目指しています。諸先輩方のアドバイスに耳を傾け、目標に向かって取り組んでいきたいと思っています。

施設からのコメント



管理者
白澤 和賀子さん

飯原さんについて

飯原さんは資格はありませんでしたが前職は障がい者施設で利用者様と接する業務に従事しており、夜勤の経験もあると伺いました。障がい者施設と介護施設では同じ福祉施設とはいえ業務内容が異なることがあり、覚えることも多く大変だと思ひます。新しい職場、業務に馴染むには「わからないことは何度でも聞く」「わかったふりはしない」「聞かれたら教え、わからないから一緒に他の人に聞く」という姿勢が大切です。介護の仕事は奥が深く正解はないのでひとりひとりの利用者様に合った対応とご家族様に対しても寄り添いとケアが必要です。そのためにコミュニケーション、介護技術や介護に対する知識なども身に付けることが必要です。また、日々の業務を通じて学ぶことも多々ありますが、ひとつひとつ経験を積み重ねていくしかないと思ひます。飯原さんには「初心忘るべからず」で、利用者様やご家族様から信頼される職員を目指して、先輩方の経験や話を耳を傾け、利用者様に関わることをたくさん経験しながら積極的に業務や資格の取得に取り組んでくれることを期待しています。

施設からのコメント



株式会社 藤吉
代表取締役(ケアマネジャー)
佐藤 吉樹さん

菅野さんについて

採用当初は担当人数も抑えていましたが今は30件に近いケースを担当していただいています。性格も明るく頑張り方ですし、細かいことでもメモを取り、学ぶ姿勢のある方だと感じています。ケアマネ業務は大変なところもあり、資格を持つていてもその資格を活かしていない方もいますので、今後も長く働いていただけたらと思っています。

事業所を立ち上げたのが震災の翌年でした。当時、(陸前高田市)広田町に介護事業所が一つもなかったため、生まれ育ったこの地で介護事業所を開所し、地元で恩返しをしたという気持ちで強かったです。利用者さんの9割近くは町内の方なので、みなさんが顔見知りでもとてもやりやすいです。ただ、そこに甘えてサービスの質を落とすとはいけないと思ひます。



担当キャリア支援員よりメッセージ

沿岸大船渡エリア担当 坂本 奈津江

とてもはつらつとした笑顔で迎えてくださった菅野さん。その笑顔には、充実感がみなぎっていました。津波被害のため異業種への転職を余儀なくされたもなお、前向きに新しいことにチャレンジし、常に学ぶ姿勢を持ち続けている菅野さんは、「誰かの役に立つことが仕事へのモチベーションにつながっているのかもしれないと感じました。今後も、さらなるご活躍を応援しております。」

施設について

小規模多機能型居宅介護事業所「ほっと おおつち」は平成19年4月に大槌町の中心部に「ほっと大町」の名称で開所していましたが東日本大震災によって全壊となる被害を受けました。事業の再開に取組、町の内陸部への再建から平成25年7月の開所を経て現在に至るまで多くの方々を支えていただいております。通いを中心として泊りや訪問のサービスを組み合わせ、ひとつの施設で様々なサービスを利用できるということもあり、利用者様やご家族様の希望や思いに寄り添ったサービスが提供できるように取り組んでいます。利用者様が畑で収穫した野菜を使った料理を地域の方々と一緒に味わう「収穫祭」や誕生会では絵描き名人の職員が利用者様の似顔絵をプレゼントするなど利用者様が楽しい時間を過ごせるように努めています。現在は新型コロナウイルス感染症予防対応ということもあり、これまで行っていた地域との交流も難しい状態が続いています。そのようななか利用者様が1日を安心して過ごせるように、また、生活の質の向上に努めるように取り組んでいる職員は利用者様の笑顔から「元気」をもたらしています。日々利用者様と関わり合いながら私たち職員も介護従事者として育てられていると感じています。スキルアップとして職員は積極的に介護福祉士等の資格の取得に取り組んでいます。社会福祉協議会の目的である「地域福祉の推進」の一翼を担う事業所として、これからも地域との交流、利用者様へのサービスの向上に努めていきたいと思います。



担当キャリア支援員よりメッセージ

沿岸釜石エリア担当 山口 睦夫



久しぶりにお会いした飯原さん、以前に比べ、柔らかな表情と穏やかな雰囲気でお話していただきました。障がい者施設での経験はありましたが、高齢者の介護に関する経験や知識がないゼロからのスタート。ご苦労もあるかと思いますが先輩職員の方々のお話を聞きながら仕事に対して真摯に向き合い、利用者様に愛される職員になっていただきたいと思ひます。飯原さんの今後の更なるご活躍を心から応援させていただきます。



YELL インフォメーション

介護の資格の届出制度

介護の資格の届出制度

～あなたを支える、せっかくの資格

介護福祉士や保育士の資格を持っている、介護の研修を修了している。

でも…「自分自身のスキルアップに良い研修はないかな?」「一度も現場で働いたことがないけど、大丈夫かな?」「福祉の仕事辞めてからブランクがあるけど、もう一度働けるかな?」などスキルアップの支援や就職相談まで、届出、登録していただくことで、介護に関わる最新情報の提供や研修によるスキル維持・向上のサポートが受けられる届出制度があります。

介護の資格 届出制度とは

～離職者・就業中の方対象の制度です。

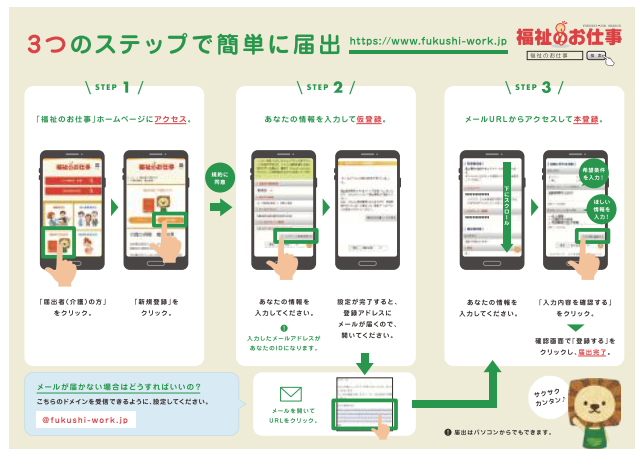
社会福祉法改正により、2017年4月1日から介護福祉士の資格を持つ方々が、介護の仕事から一度離れても、いつでも介護の仕事で再び活躍していただけるように都道府県福祉人材センターに届け出ることを努力義務として規定しました。

届出により都道府県福祉人材センターと接点を持ち続けることで、介護職としての関心の継続を促し、再度介護職としての就業を希望する際には、円滑に就業支援へと結びつけ、介護福祉士有資格者の介護分野以外への流出や今後の潜在化を防ごうという目的があります。

届出できる資格・研修

- 介護福祉士
- 介護職員実務者研修
- 介護職員初任者研修
- 入門的研修
- 旧ホームヘルパー養成研修1級・2級
- 旧介護職員基礎研修
- 保育士

この施策は介護業界全体として推し進める**介護人材確保策**であり、社会福祉法には事業所側も介護福祉士の届出を支援する努力義務が規定されています。**事業所の皆様にも主旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。**



介護福祉士や介護の研修修了者は福祉人材センターに届出をお願いします。

届出登録すると「介護のお守り袋」(非売品)をプレゼントします。



《お知らせ》

小規模介護事業所合同就職面談会(県央エリア)

期日: 令和2年12月15日(火)
13時～15時(受付12時30分～)
会場: ふれあいランド岩手 1階 ふれあいホール

地域に根差した介護事業所の魅力を理解してもらい、就職に結びつけることを目的として、地域ごとに小規模介護事業所に限定した就職面談会を開催します。人材確保や事業PRの一環として積極的に参加されるようご案内します。
* 県北・沿岸(宮古・釜石・大船渡)・県南エリアは終了しました。

第2回 介護・保育・福祉の就職相談会

期日: 令和2年12月26日(土) 【第1部】11時～13時(25事業所) / 【第2部】14時～16時(25事業所)
会場: いわて産業文化センター(アピオ)



求人・求職情報総合サイト「福祉のお仕事」では、インターネットを介して事業所から求人申請ができます。詳しくは、下記までお問合せください。

福祉の求人・求職は岩手県福祉人材センターへ
社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
岩手県福祉人材センター

岩手県盛岡市三本柳8地割1番3 ふれあいランド岩手2F
TEL.019-637-4522 FAX.019-637-9612
E-Mail fukushijinzei-1@iwate-shakyo.or.jp

